

(1) 施設計画の考え方について

【近隣環境及び学校の効率性、安全性、利便性に配慮した施設計画】

- ・正門前に歩道状空地を設け、児童の安全なたまり空間を確保し、さらにコモングリーンによって歩車分離を図った安全で緑豊かな正門前広場を計画します。
- ・校舎は中庭を中心とし、回遊性のある効率的で分かりやすい動線計画とし、今宿の新たなつながりの輪を描きます。
- ・2階北西側に「富士見テラス」を設け、植物を育てたり青空教室として利用するなど多目的な場所を提案します。
- ・2,3階南東側の構造フレームを活用した壁面緑化「プランターファーム」を計画し、児童たちの手で今宿小学校の新たな顔を創造します。
- ・既存体育館前に地域開放やキッズの遊び場、授業など多目的に利用できる広場「コモンパーク」を整備します。
- ・技術員室、内部・外部倉庫をバックヤードに近い場所にまとめ、管理面での利便性の向上を図ります。
- ・給食室前にピロティを設けることで、雨にぬれない荷捌きスペースを確保します。

【良好な学習環境を実現するための施設計画】

- ・昇降口から「中庭デッキ」に連続する明るく開放的なホールを計画します。また、中庭の一部をデッキとすることで青空教室としての利用や放課後キッズの遊び場として活用できる計画とします。
- ・本学校の特徴である史料館は図書室やワークスペース（WS）と一体的な利用が可能な配置とし、児童の「伝統文化探求エリア」として計画します。
- ・多目的室（集会・発表）、音楽室、図画工作室、家庭科教室を「創作活動エリア」として近接配置し、発表の場や異学年の交流の場として「創作展示ホール」を提案します。
- ・EVはバリアフリー経路を考慮しながら教室群の中心に配置することで、給食配膳のしやすさにも配慮します。
- ・放課後や休日に利用する地域開放諸室を「コモンパーク」に面して集約配置しセキュリティラインを明確にします。

(2) 「横浜市脱炭素社会の形成の推進に関する条例」を踏まえた、環境負荷低減及び省エネルギー等の考え方について

ア 省エネルギー化や再生可能エネルギー等の導入など環境負荷低減策について

- ・敷地内及び建物における環境対策を積極的に採用検討することでCASBEEの高ランク取得を目指します。
- ・屋上には20KWの太陽光発電と蓄電池を設置し、通常は系統連系と蓄電池充電で電力をまかない、停電時・災害時は切り替えて必要最低限の照明と非常時コンセントへ供給します。
- ・児童のタブレットなどで、学校の電気消費量など見える化し、省エネの重要性学習の場を提供します。

イ 施設の特徴を考慮した、効果的な木材の活用方法

- ・多くの人の目に触れる昇降口やホール、図書室の壁・天井を木質化して調湿効果など快適性を高めた環境とします。
- ・各所ワークスペースやトイレ前にはベンチを設けて児童のたまり空間を創出し、ベンチは県産木材を使用します。

(3) (1)、(2)を踏まえた、コスト削減の考え方について

ア 工事費のコスト削減に向けた具体的方策

- ・PC梁を効果的に採用することで柱及び杭本数を減らし、コスト削減と工期短縮を図ります。
- ・通風・採光など自然エネルギーを最大限活用すると共に、維持管理コストに配慮した内装計画とします。
- ・屋外付帯設備をまとめて計画することで外壁面積を削減し、コスト削減を図ります。
- ・屋上アスファルト防水はノンケトル冷熱併用工法の採用を検討し、工期短縮と近隣への匂い対策に配慮します。
- ・バルコニー等のPCa化を検討し工期短縮と躯体の高品質化・長寿命化を図ると共に、工事車両を軽減します。

イ ライフサイクルコストの削減に向けた具体的方策

- ・純ラーメン構造とすることで、間仕切り壁を乾式耐火遮音壁とし、児童数の増減やGIGAスクールへの対応等による将来的な用途変更に対応可能な計画とします。

ウ 関係者間の連携等をどう行うかなどの取組体制

- ・関係者に対しては、BIMを活用した3Dモデルや模型を活用し、早い段階で立体的なイメージの共有を図ります。
- ・経験豊富な管理者を中心に、作業内容をオンライン等で共有し、関係者が常に進捗を確認できる環境を構築します。

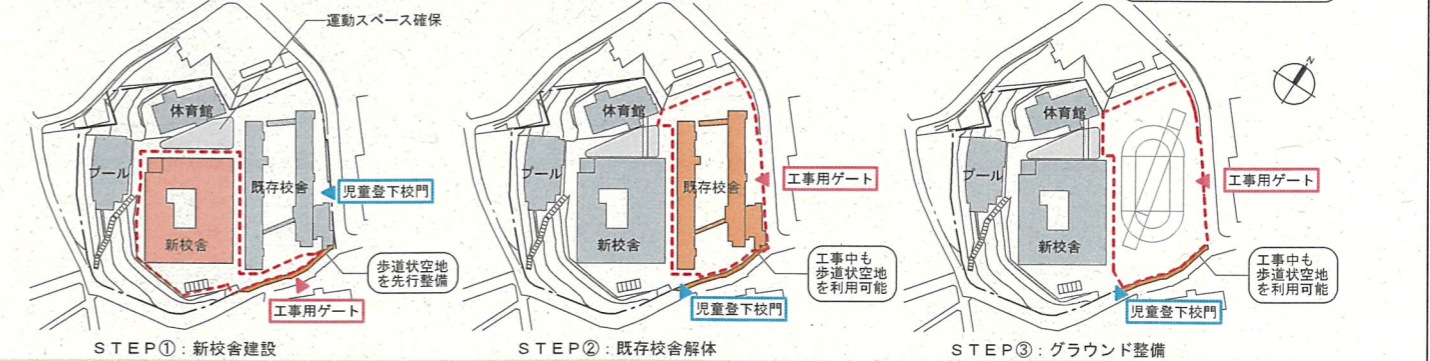
(4) 工事中の安全・学校運営への配慮について

ア 工事中の児童の安全配慮、工事車両との動線の分離

- ・敷地周辺は住宅街のため工事車両ルートの検証を行い、児童や地域の高い安全性の確保に努めます。
- ・既存校舎の解体時は騒音、粉塵防止のため建物周囲に防音パネルを設置し、近隣住民に配慮します。
- ・低振動、低騒音の重機を採用すると共に、仮囲いに騒音、振動計を設置して管理を徹底し、近隣住民に配慮します。
- ・明快な工事区分とすることで工事車両と分離した児童と職員の安全な動線を確保します。
- ・児童・職員の安全確保の為、工事車両の進入箇所・ゲート前に交通誘導員を配置します。

イ 工期短縮、運動スペース及び給食室の継続利用など学校運営に配慮

- ・既存体育館前を運動スペース（コモンパーク）として確保し、工事期間中も児童が屋外で体を動かせるように配慮します。
- ・PC梁採用の検証、純ラーメン構造により工期短縮と工事車両の縮減を図ります。
- ・新校舎、給食室、電気室の建設・完成・引越し完了後に既存校舎解体という工事手順により給食の継続提供、学校運営に支障のない工事計画とします。



(5) 業務の成果物等の品質確保、業務の進め方と取組体制について

ア 成果物等の品質向上を図るための方法

- ・フロントローディング型の取組体制をとり、未検討事項の発生や手戻りを最小限に抑えます。
- ・情報共有を図り、「教育ビジョン」と学校関係者の想いや教育活動を十分に理解し、設計に反映させます。
- ・チェックリストの活用やダブルチェック体制に加え、クロスチェックを行うことで十分な照査期間を確保します。
- ・わかりやすい資料や比較表及び見やすい図面作成を心がけ、意匠・構造・設備・積算の各図面、計算書の整合性を図ると共に、変更があった場合にも逐一对応し、整合性を図ります。

イ スケジュールの組立て方や管理方法、工事監理体制などの業務の進め方

- ・近隣調査、諸官庁との事前協議を迅速に行い、事業計画に関連する課題を把握し、綿密な設計工程を作成することで、履行期限の厳守を徹底します。
- ・担当者が設計から監理まで全体を掌握する体制とし、十分な連絡・打合せ・逐一の図面更新など意匠・構造・設備のバックアップ体制を強化します。